初年次教育における情報リテラシーの基礎としての タイピングスキル評価

宮本和典 [1]

概要：情報リテラシーは知識と実技の両面を含み，初年次教育において新入生の情報に関する基礎知識や操作スキルを把握することは重要である．大学・短期大学の初年次教育では，社会人に求められる情報スキルとして，キーボード操作に加え，文書作成，表計算，プレゼンテーション資料の作成などの実践的なスキルがカリキュラムに組み込まれていることが多い．操作スキルの基礎となるタイピングスキルの現状を把握するため，タイピングスキルテストを実施し，調査を行った．

キーワード：初年次教育，タイピングスキル，情報リテラシー

Assessment of Typing Skills as a Foundational Element of Information Literacy in First-Year Education

KAZUNORI MIYAMOTO[†1]

Abstract: Information literacy encompasses both theoretical knowledge and practical competencies. In first-year higher education, assessing new students' foundational understanding of information concepts and their operational proficiencies is essential. Universities and junior colleges often integrate practical skills into their first-year curricula, including document creation, spreadsheet manipulation, and presentation design, alongside keyboard proficiency. These skills are considered crucial for future professional development. To evaluate the current status of typing skills, which serve as a fundamental component of operational competencies, we administered a typing proficiency assessment and conducted a survey.

Keywords: First-Year Education, Typing Skills, Information Literacy

1. はじめに

近年，デジタル技術の急速な進歩と普及に伴い，情報リテラシーの重要性がさらに重要となっている．特に，高等教育機関では，学生が将来の職業や社会人として必要不可欠なスキルとして，情報リテラシーの必要性が強く求められている．大学・短期大学の初年次教育では，社会人に求められる情報スキルとして，キーボード操作に加え，文書作成，表計算，プレゼンテーション資料の作成などの実践的なスキルがカリキュラムに組み込まれていることが多い．これらにおいては，効率的で正確なタイピングスキルは，情報スキルの基礎的要素として，大学や短期大学における初年次教育として，情報スキル教育の基礎を築くことが求められている．特に，文書作成，表計算，プレゼンテーション資料の作成など，タイピングスキルの向上に直結するタイピング能力の評価とタイピングスキルの向上は，初年次教育における重要な課題となっている．

本研究では，初年次教育において学生のタイピングスキルの現状を把握し，情報リテラシー教育の効果的な設計に向けた基礎的データを収集することを目的とする．これにより，学生の将来的な学習成果や社会人に求められる情報スキルとして，キーボード操作に加え，文書作成，表計算，プレゼンテーション資料の作成などの実践的なスキルの向上に寄与することが期待される．

学習者を取り巻く環境は GIGA スクール構想や大学入学共通テスト「情報」新設等，急激に変化しており，大学・短期大学では，これまでとは異なる入学者を受け入れていくことになる．情報リテラシーとして，情報スキル，情報活用能力，情報倫理，情報セキュリティを想定し，知識と実技を含め，初年次教育において新入生の情報に関する基礎知識や操作スキルを把握することは重要であり，情報スキルの測定・分析方法開発を目指して，文書作成，表計算，プレゼンテーション資料の作成などの基礎となるタイピングスキルタイピングスキルの評価を行った．

2. 現状と課題

タイピングスキルについては，小学校，中学校，高等学校等を調査対象としては,「児童生徒の情報活用能力の把握

1 中村学園大学短期大学部
Nakamura Gakuen University Junior College

ⓒ2025 Information Processing Society of Japan

に関する調査研究」が実施されている．調査内容として，児童生徒を対象としたキーボードによる文字入力課題，児童生徒を対象とした問題調査，児童生徒を対象とした質問調査，学校を対象とした質問調査である[1]．一方，大学・短期大学においては，初年次教育として情報関連科目があり，新入生の情報に関する基礎知識や操作スキルを把握することは重要である．操作スキルを実際に測定する方法やアンケート調査などが個別に行われており，統一的な測定方法が必要である．新入生の情報に関する基礎知識や操作スキルを把握するための調査としては，多くの大学・短期大学において，個別に実施され報告されている．

現在，大学・短期大学では，小学校から高等学校での 1 人 1 台端末，入学共通テスト「情報」を経験してきた新入生へ対応できる授業科目の内容を設けることが求められている．さらに，学科特性に応じた情報スキルの育成に求められる情報スキルの検討が求められている．

社会では，情報の量と質が急速に増大しており，情報機器を活用して業務を効率化したり，新しい価値を創造したりする能力が求められている．例えば，顧客情報の分析やデータに基づいた提案を行うなど，情報スキルが求められている．大社接続のうえでも情報スキルはとても重要な課題となっている．

本学科では，日商 PC 検定試験 （文書作成） 3 級や日商 PC 検定試験 （データ活用） 3 級を受験する．日商 PC 検定試験 （文書作成） 3 級は，レベルとしては「指示に従い，ビジネス文書の雛形や既存文書を用いて，正確かつ迅速にビジネス文書を作成することができる」とされ，実技科目と知識科目からなり，実技科目では「企業実務で必要とされる文書作成ソフトの機能，操作法を一通り身につけている」「指示に従い，正確かつ迅速にビジネス文書を作成できる」「ビジネス文書（社内・社外向け）の雛形を理解し，これを用いて定型的なビジネス文書を作成できる」「社内の文書データベースから指示に適合する文書を検索し，これを利用して新たなビジネス文書を作成できる」「作成した文書に適切なファイル名をつけ保存するとともに，日常業務で活用しやすく整理分類しておくことができる」等を範囲としている．これらは，キーボード操作だけでなく，文書作成についても習得しておくことが必要となる. PC 検定試験 （データ活用） 3 級は，レベルとしては「指示に従い正確かつ迅速に業務データベースを作成し，集計，分類，並べ替え，計算，グラフ作成等を行う.」とされ，実技科目と知識科目からなり，実技科目では「企業実務で必要とされる表計算ソフトの機能，操作法を一通り身につけている」「表計算ソフトにより業務データを一覧表にまとめるとともに，指示に従い集計，分類，並べ替え，計算等ができる」「各種グラフの特徴と作成法を理解し，目的に応じて使い分けできる」等を範囲としている．これらは，データ処理についても習得しておくことが必要であるが，キーボード操作やマウス操作が必須である．

また，情報処理関連科目以外の学習においても，レポート，課題提出やテストが LMS（学習管理システム）などを通して行われることが多くなり，学習者のキーボード操作やマウス操作など，情報スキルが必須となっている．

3. 測定方法

情報スキルの測定・分析方法開発を進めるにあたり，定量的，定性的な情報スキル測定のためのデータを収集するため，操作スキルを実際に測定する方法を検討した．

タイピングスキルの測定では，日本語入力においては，かな入力，ローマ字入力があり，日本語入力の問題提示においては，漢字かな交じり，かな，ローマ字がある．英字入力では，問題提示においては，英単語，英単語ではない英字がある．そこで，本研究では，漢字の読解力，英単語の学習状況のばらつきを考慮して，初等教育を対象としたタイピングスキルテストを用いた．

受講生のスキルチェックによる自己評価ではなく，タイピングスキルテストの実施による定量的測定を実施した．

4. おわりに

情報スキルとして，知識と実技を含め，初年次教育において新入生の情報に関する基礎知識や操作スキルを把握することは重要であり，小学校，中学校，高等学校等を調査対象として,「児童生徒の情報活用能力の把握に関する調査研究」が実施されているが，大学・短期大学においては，社会人に求められる情報スキルとして，キーボード操作だけでなく，文書作成についても習得しておくことが必要となる．これらを踏まえ，操作スキルとして，タイピングスキルテストを実施し今後の定量的，定性的な情報スキル測定のためのデータを収集した．タイピングスキルテストの実施では，日本語入力では，ローマ字入力で，問題提示においては，漢字の読解力を考慮し，かなでの提示とした．英字入力では，英単語の学習状況の考慮し，英単語ではない英字での問題提示とした．

今後，効率的な文書作成やデータ活用ができるためには，キーボード操作として，タイピングスキルのみではく，漢字の読解力や英単語の学習も必要であると考えられるが，初年次教育における情報リテラシーの基礎としてのタイピングスキル評価にむけて進めていきたい．

参考文献

[1] 文部科学省, "児童生徒の情報活用能力の把握に関する調査研究", https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00028.html, (参照 2025-2-14).

ⓒ2025 Information Processing Society of Japan